

# 暮らしの瓦版

## 2012年10月号



### 住宅リフォームのワザ(1)

「住まいのリフォームや耐震改修を始める際のコツと確認事項」住まいをリフォームしようと考えた際、初期の段階で考えるべきポイントがいくつかあります。

まず、住まいのリフォームを行う範囲について、予算に応じて、リフォームを行う工事範囲を決める必要があります。有効な住宅リフォームを行うためには、住宅の傷んでいる部分の把握が大切です。特に外部については、傷んでいる部分があると住宅で重要な構造部分にまで傷みが進行する可能性が高くなるので、確実に点検をしましょう。

内部のリフォームについては、内装の改修と設備機器の改修がポイントです。内部の間仕切り壁の変更を行うと、場所や内容によっては、かなり大掛かりな工事になります。また、設備機器に関しては技術の進歩が一番目立つ部分です。最新機器の中で、欲しい機能を満足しつつ、コストパフォーマンスが高い設備を選ぶことが必要になるでしょう。地震に対する対策も、住宅リフォームにおける重要なポイントになります。耐震改修に関しては、地域によって独自の補助金やローンの制度がある場合も多いので、利用可能な場合は有効に活用しましょう。

一般的に住宅リフォームは以下のような手順(一般的な流れ)で進んでいきます。

予算を決める：まず、リフォームに、どの位の費用をかけるのかを考えます。総額いくらまでお金をかけられるのか、その金額によって、リフォームできる範囲が決まってくる。内装を中心とした軽いリフォームの場合は、できる限り全額を現金でまかなう方がよいでしょう。外部にリフォームが必要になった際に内装のリフォームのローンが残っていたら、経済的にかなり苦しい状態になります。そして、その外部のリフォームが必要になる時期というのは、いつになるか分からない場合も多いので、内装だけの軽いリフォームではローンを組むべきではないでしょう。本格的なリフォームの為にローンを組む場合には、借りられる金額を確認する必要があります。そのローンと貯金の合計額の範囲内で可能な工事の範囲を、リフォームを依頼する相手と相談しながら決めます。この時、構造部分や外廻りの改修にかかる金額については、減らさないことが基本となります。



### 季節の風物詩 「神無月」



#### 生活 メモ 「松尾芭蕉 おくのほそ道」

「おくのほそ道」とは江戸中期、松尾芭蕉著の俳諧紀行。元禄15年(1702年)刊。元禄2年3月、門人曾良と江戸を出発、奥州・北陸の名所・旧跡を巡り、大垣に至るまでの紀行を、俳句をまじえて記したものです。江戸時代の俳聖、松尾芭蕉は伊賀の武士出身といわれ、さび・しおり・細みで示される幽玄閑寂の蕉風俳諧を確立しました。その生涯は各地の名所旧跡を回り、歌枕を巡り、様々な人と交流しています。それは、笈の小文「更級紀行」「野ざらし紀行」等の書物に著されていますが、最も有名なのが晩年の「おくのほそ道」の旅です。そして最後に西へ向かって旅立ち、大阪の南御堂で門人に囲まれ息を引き取ったと伝えられ、その生涯はまさに旅に生き、旅に死するの境地で、辞世の句も「旅に病んで 夢は枯れ野を かけ廻る」でした。元禄2年(1688年)、旧暦3月27日(新暦5月18日)に、当時46歳であった芭蕉は門人の曾良とともに、江戸深川の芭蕉庵を後にし、東北・北陸の歌枕、名所・旧跡を巡り歩く旅に出ました。この旅はその年の旧暦8月20日(新暦10月3日)までの約5ヶ月間に渡り、その距離は約2万3千キロにも及び、この旅をもとに書かれたのが、「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也。」で始まる紀行『奥の細道』です。東北・北陸地方を回りながら、弟子を訪ね、歌枕を巡って歩き9月6日(陽暦では10月18日)に大垣から伊勢へ旅立つところで、結びになっています。現在は各所に句碑が立てられ、史蹟として保存されている所も多く、いにしへの芭蕉の旅のしるしをたどることができます。芭蕉がみちのくへの旅を思い立ったのは、歌人西行や能因の放浪の境涯を慕い、みちのくの歌枕を訪ねることにあった、と言われています。ただ芭蕉にとつて「旅」とはどのようなものだったのか。それは「おくのほそ道」冒頭を飾る芭蕉の一節に現れているのではないのでしょうか。旅する人にとつて、新しい土地の風景、人との出会い、その地方の歴史への感動：これらに芭蕉の風流心が大きく震動して、筆を執り、「おくのほそ道」が出来上がったのでした。



神無月とは陰暦で十月のこと。語源は、神を祭る月であることから「神の月」とする説が有力で、「無」は「の」を意味する格助詞「な」です。中世の俗説には、10月に全国の神々が出雲大社に集まり、諸国に神がいなくなることから「神無月」になったとする説があり、出雲国では反対に「神在月」と呼ばれます。雷の鳴らない月で「雷無月」が転じたとする説や、新穀で酒を醸す月なので「醸成月」が転じたとする説もあります。

#### 生活 メモ 「ザ・ビートルズ デビュー50周年」

主に1960年代に活動したロックバンド。1962年10月にレコードデビュー、今年でデビュー50年を迎えます。パンドの活動期間内に母国イギリスで12作のオリジナル・アルバムを発売し、その内11作が全英アルバムチャートで週間1位を獲得しました。11作の週間1位獲得合計数は162週間売り上げ最高アルバム獲得数4作と第1作「プリーズ・プリーズ・ミー」による連続1位獲得30週はいずれも1960年代の最高数。シングルは22作発売し、その内17作が1位を獲得しています。さらにアメリカを初め各国でも高いセールスを記録し、ギネス・ワールド・レコーズに最も成功したグループアーティストと認定されています。本国イギリスでは1965年に外貨獲得に貢献したとしてエリザベス二世からMBE勲章を授与され、1988年にロックの殿堂入りを果たしています。イギリスの港町リバプールで誕生したビートルズは、1962年10月5日に「ラヴ・ミー・ドゥ」でデビューし、1970年に解散。メンバーはジョン・レノン(リズム・ギター)、ポール・マッカートニー(ベース)、ジョージ・ハリスン(リード・ギター)、リンゴ・スター(ドラム)。活動期間中に公式発表された210曲のうち、オリジナル作品の圧倒的な数をジョンとポールが作曲。中期以降はジョージも加わった3人のソングライターが活躍しました。解散はそれぞれの音楽性の違いが顕著になったためであり、4人がアーティストとしてまた人間として成長した証でもあり、惜しまれつつもそれは4人にとつてはごく自然な選択だったのでした。

活動前期においては「ビートルマニア」と称される人気を獲得、アイドルの見方でしたが、活動後期から現在に至っては、その音楽性は高く評価され、以後の音楽シーンに大きな影響を与え、ひとつの時代を築いたグループであることに間違いはありません。今年、ザ・ビートルズはデビュー50周年。多くの記念商品が発売されています。奇しくも同じく世界のロックシーンを共にリードしてきたザ・ローリング・ストーンズも結成50周年を迎え、盛り上がりを見せています。



#### 気になる言葉 「東京駅保存復原工事終了」

1914年に創建された東京駅丸の内駅舎は、辰野金吾により設計、赤れんが駅舎として親しまれてきました。しかし、1945年、戦災により南北のドームと屋根・内装が焼失。戦後、3階建ての駅舎を2階建て駅舎に復興し使用されてきましたが、今回行われている保存・復原工事では、空襲で焼失した3階とドーム部分が再建されるなど創建時の姿を再現。そして鉄骨煉瓦造の下に地下躯体を新設し、機能の拡大を行い、大地震にも耐えうるための免震工法で施工されます。10月3日には駅舎内に客室150の「東京ステーションホテル」が再開。また八重洲口超高層ツインタワーをつなぐ歩行者デッキ「ゲザルーフ」が2013年秋に、八重洲口駅前広場が2014年秋に、それぞれ竣工し、東京駅周辺の再開発がいよいよ形となって現れます。

修繕リフォームから新築工事の建物の事  
 優良土地活用から物件探し等の土地の事  
 北本建設株式会社  
 埼玉県北本市古市場3-131 TEL: 048-591-1234  
 URL: http://kitaken1970.com FAX: 048-591-0019

### 10月 暮らしのカレンダー

神無月、神在月、神去月、雷無月、建亥月、小春、時雨月、上冬、大月、初霜月

1日	衣替え	22日	平安遷都の日
8日	寒露 / 体育の日	23日	霜降
10日	目の愛護デー	27日	十三夜(栗名月)
20日	秋土用	月内	ノーベル賞発表